

**基本方針** ビジネスモデルの強化

**重点戦略** 有価証券戦略

当行の有価証券運用は、「優良な支払い準備資産の確保」、「安定的な利息配当収入の獲得」、「中長期的な視野に立った含み益の形成」のため、安全かつ優良な資産の積み上げを行っており、資産運用において貸出金とともに重要な役割を担っています。

**有価証券ポートフォリオの状況**

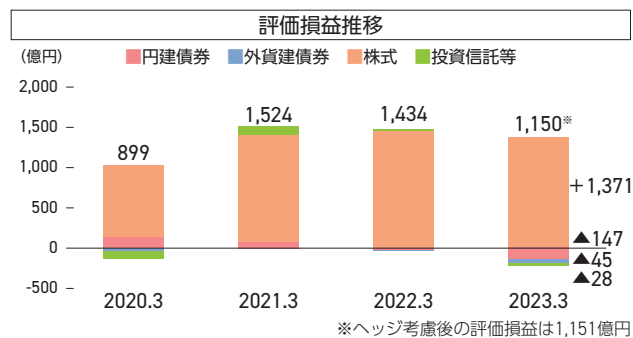
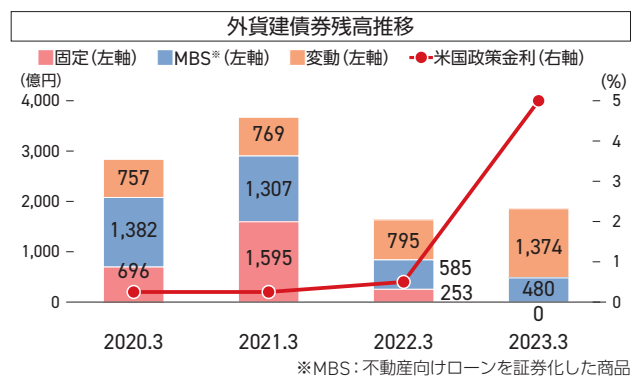
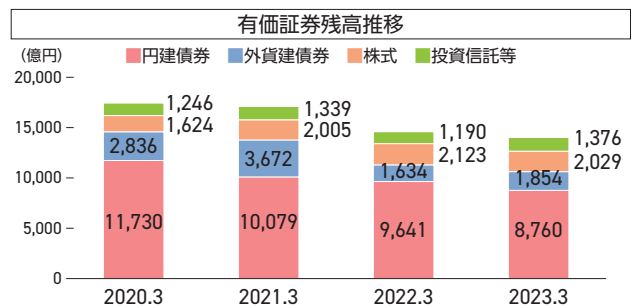
当行では、2023年3月末時点で約1兆4,000億円の有価証券を運用しています。日本の低金利環境の長期化を受けて円建債券の償還再投資が難しいことから、銀行全体として中堅中小企業・住宅ローン貸出を増強してきた結果、ここ数年、有価証券残高は減少傾向にあります。

円建債券は、マイナス金利政策をはじめとする金融緩和政策により償還再投資の抑制を続けており、残高は減少傾向にあります。

外貨建債券は、米欧での大幅利上げの影響を回避するために固定金利の債券を中心に残高を減少させており、新規投資は変動金利の債券への投資を中心に行っています。

株式・投資信託は相場動向に応じて残高を増減させているほか、債券投資の代替として相場動向に大きく左右されずに安定的な収益確保をめざし、運用戦術を多様化させる投資も行っています。

経営体力の余力度合いを示す有価証券の評価損益は、内外金利上昇により円建債券・外貨建債券で評価損となっているものの、円建債券における償還再投資抑制、外貨建債券における固定金利の債券の残高削減を行った結果、有価証券全体では2023年3月末時点で1,150億円の含み益を有しています。



**今後の運用方針**

当行の有価証券運用方針は上記基本方針に加え、有価証券ポートフォリオ構築にあたって、市場環境の変動にも適宜対応しながら安全かつ優良な資産の積み上げをめざしています。

市場環境の先行きを見通すと、国内では物価上昇や賃上げが持続するかは不確実であり、海外でも主要中央銀

行の金融引締め継続による将来的な景気後退懸念が高まっており、総じて先行きは不透明な状況です。

このような環境認識のもと、当面、有価証券ポートフォリオの構築は漸進的とし、相場変動時にも円滑かつ柔軟に投資方針を見直し収益の獲得を追求できるよう、投資余力を温存した運用を行ってまいります。